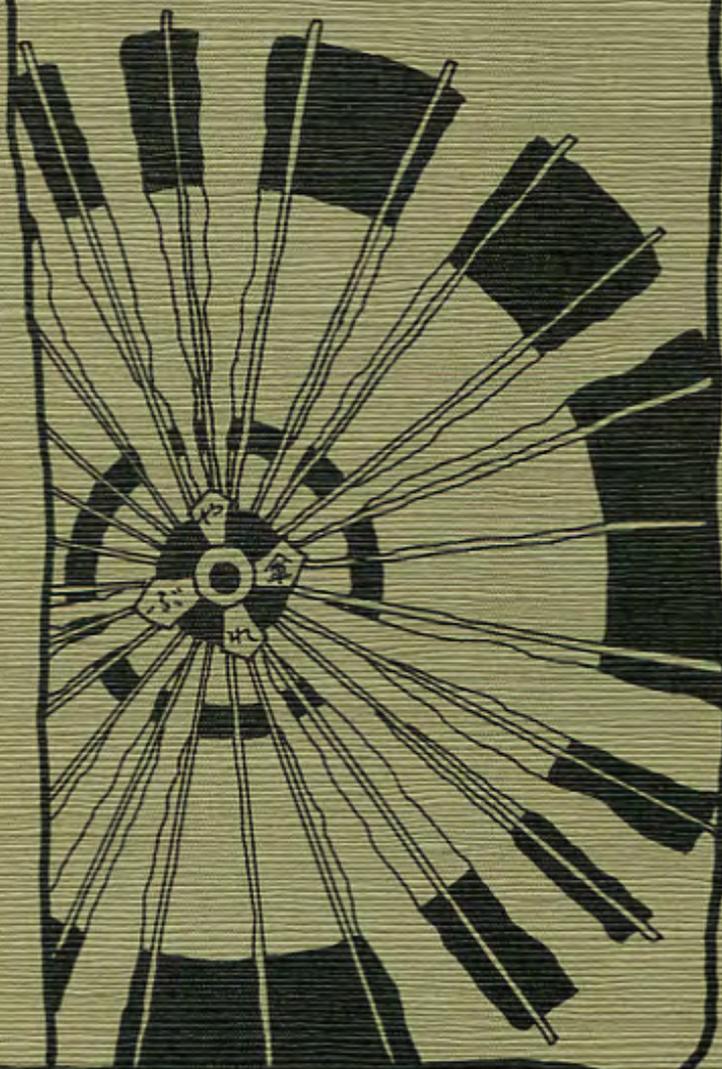


やぶれ傘



六十八号

二〇二二年十月

逃げ感ふ油蟬追ふ雀かな	高柳正幸	手花火を持つ手の水に映りある	根橋宏次
蠅ひとつ隣りの席で討たれけり	松村光典	蚊を打つて血液型の話など	きくちきみえ
萩咲けり芭蕉の詠みし夢の跡	久世孝雄	溝萩や農婦は腰に鎌差して	廣瀬雅男
指先で揉む鬼灯のふによぶによと	有賀昌子	宵宮の舞台ほどよき風を受け	大島英昭
終バスを降りて家まで虫時雨	國保八江	高橋のぐるりかんかん照りの秋	丑久保 勲
境内の木々に風来る夜の秋	渡邊孝彦	年配の跳び越えてゆく秋の蛇	安藤久美子
猫が来る月夜の歴史館の塀	藤井美晴	目と耳で追ふ秒針や鉦叩	瀬島酒望
川風に吹かれて秋にひたりけり	白石正躬	川風に吹かれて秋にひたりけり	白石正躬

抄 集 句 傘 紀 大 崎 ぶ れ や

坂道の丸踏んで行く夏の雲	小山陽子	金亀子玻璃にぶつかりしばし死す	時田義勝
引き出せる靴より跳ねしいとどかな	小池一司	カウベルの不規則に鳴る夏の山	野口希代志
一斉に首を傾げて神輿揉む	黒木東吾	ペランダのサンダルに足灼かれけり	橋本美代
蟹死にをり夕日を返へす潮だまり	忽那みさ子	干梅を裏返しては唾をのむ	三角よね子
盆に来て母の鏡台使ひけり	上林富子	嘯み砕く水のかけら夏祭り	湯本 実
みんみんのふる里静か母寝て	菊地葉子	夕顔や寺に住職独り居て	秋山信行
撫でるたびあくびする猫夏座敷	奥田温子	窓枠に入道雲の収まらず	浅嶋 肇
板塀に節穴続く酔芙蓉	天野美登里	板塀に節穴続く酔芙蓉	天野美登里

流
灯

大崎
紀夫

投石器ならぶ城跡石灼けて
砂丘よりすこしきて花南瓜かな
青葉木菟木橋の下の水ひかり
風に疲れしあめんぼの屯せる
帚木の向うに夕日まはりけり

沖ひかりつつ暮れてゆく土用の日
流灯のあとの夜風となりけり
離陸する尾翼のひかりある残暑
ヒメムカシヨモギの先に猫のこゑ
天奇ししづかに川の水は引き
窯跡の土のざらつきつづれさせ
萩こぼしゆく奥の院まゐりかな

手花火

根橋宏次

紙詰めて雑器積まる朝ぐもり
おしぼりの固めをほぐす水羊羹
釣堀に届いて駅のアナウンス
向日葵や踏切とほく鳴りゐたる
一枚の魚拓が壁に夏をはる
流木に吹かれてゐたる花火屑
船揚ぐるワイヤロープや月見草
なかなかに鯨の釣果のある馬穴
手花火を持つ手の水に映りゐる
夏雲のやうではあるが秋めいて

ひよこ

きくちきみえ

蚊を打つて血液型の話など
幼子の口開けて待つかき氷
花木 槿鏡の奥の雲しろく
呉服屋のあがり框に団扇かな
頭の皮の少しずれたる残暑かな
色つきのひよこに夏の夜のもし
夕立の庭の馬穴に始まりぬ
新聞を出す日八月十五日
電柱の影と重なる秋日傘
地球儀の周りは秋の夜なりけり

溝 萩

廣瀬雅男

あひ間にはわらべ唄吹く祭笛
鱒刺の群れのきらめく昼の海
浜木綿や引きゆく波は砂に消え
魚屋と八百屋と並び荒葎簞
蟬のこゑ降る鈴懸の並木かな
抱かれてヨーヨーを釣る浴衣の子
日は山に隠れて踊り太鼓かな
溝萩や農婦は腰に鎌差して
塩振りし水ぐいと飲む残暑かな
枝に枝重ねて萩の咲きにけり

雪 溪

大島英昭

御手洗に柄杓の並ぶ夏祓
荒梅雨や海^い石^りに海鵜動かざる
宵宮の舞台ほどよき風を受け
反り橋の反りのけはしき手毬花
涼風の上りくる磴下りけり
信号の下に山車きて灯さるる
製材の音凌霄は屋根を這ひ
雪溪に浮き雲のかげ落ちにけり
夏の日の暮るるだいだい色の椅子
白蝶の地に止まりけり魂まつり

花石榴

丑久保勲

自
転
車
の
気
配
後
ろ
に
合
歡
の
花
抗
は
ず
掃
き
出
さ
れ
け
り
金
亀
子
葛
す
こ
し
固
き
夜
中
の
葛
桜
強
ま
り
し
傘
の
雨
音
花
石
榴
後
ろ
向
き
に
岸
を
離
る
納
涼
船
揚
羽
蝶
ひ
と
羽
ば
た
き
で
消
え
に
け
り
混
じ
り
あ
ふ
往
き
と
帰
り
の
蟻
の
列
離
陸
せ
し
機
影
傾
く
雲
の
峰
柿
の
葉
を
鳴
ら
す
風
か
な
夜
の
秋
高
橋
の
ぐ
る
り
か
ん
か
ん
照
り
の
秋

秋の蛇

安藤久美子

干傘に降る夏落葉午後ゆけり
夏川や深くかはらう棲む嘶
後ろより声かけられし蛍の夜
木下闇抜け来て野外音楽堂
奥の院まで蟬時雨続く磴
油照り螺子生産の町工場
アスファルト融けさう水を打つ頃は
亀の子の騒ぐ露店の洗面器
本丸の址は球場あきつ群れ
年配の跳び越えてゆく秋の蛇

鉦 叩

瀬島洒望

宴席は離れに移り夏点前
雷神の禪にある西日かな
炎昼の境内鳩と警備員
ラムネ売る露店雷門前に
鬼灯市追加の鉢の届きけり
フリルある日傘小唄の師匠かな
納豆の辛子手につく朝曇
無造作にもぎて赤^と茄^ま子を呉れにけり
目と耳で追ふ秒針や鉦叩
お鈴^{りん}振る托鉢僧や鯛雲

野の早

白石正躬

川に出でて麦藁帽の風に浮き
青芦の風呼ぶころとなりにけり
大木の夏の木肌を触りけり
真菰など活けて座敷に風を入れ
昼月のさだかに見えて野の早
ペットボトル棒につるされ夏の果て
スカールがスカールを追ふ今朝の秋
早掘りのさつまに秋芽ふたつみつ
奥山のこの大木の秋めける
川風に吹かれて秋にひたりけり

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(土)	AM10:00	楽天会	教育センター	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
12月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	26日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月16日(日)の吟行。集合は10時。JR上野駅公園口改札口。

東京文化会館の前です。句会場は滝野川会館302号集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ